

[news.yahoo.co.jp](https://news.yahoo.co.jp)

## ラグーンに「健全な環境取り戻す」 伊ベネチアの取り組み (AFPBB News) - Yahoo!ニュース

2-2 minutes



【10月11日 AFP】イタリア・ベネチア (Venice) は観光名所のサン・マルコ広場 (Saint Mark's Square) やため息橋 (Bridge of Sighs) で有名かもしれないが、この都市には見過ごされることの多い魅力がもう一つある。それはラグーン (潟) だ。かつては多様な魚や鳥が生息していたラグーン内は、人間の干渉によって水の塩分濃度が劇的に上昇した。これを受け2017年、ラグーンに淡水を引き入れ、かつての栄光を取り戻すことを目指す環境整備計画「ライフ・ラグーン・リフレッシュ (Life Lagoon Refresh)」が立ち上げられた。計画を率いるイタリア環境保護調査高等研究所 (ISPRA) の研究者ロッセラ・ボスコロ・ブルサ (Rossella Boscolo Brusa) 氏はAFPの取材に、「河川がラグーンを迂回 (うかい) するようにしたことが原因で長い間に失われた環境を再構築することが、この計画の狙いだ」と語った。ブルサ氏によると、河川を迂回させたのは、湿地域を浄化してマラリアに対処することが目的だったという。だが、この活動は思いがけない結果を招いた。「水の塩分濃度が上昇し、アシの生育数が減少した。アシは保護対象の生物種や商業的利益がある生物種などの非常に貴重な生息環境となる」と、ブルサ氏は指摘した。伊ベネチア・カフォスカリ大学 (Ca Foscari University of Venice) の専門家、アドリアーノ・スフリーソ (Adriano Sfriso) 氏によると、かつてラグーンの半分以上はアシが生い茂る塩性湿地だった。その面積は約1万7000ヘクタールに及んでいたが、現在では、わずか34ヘクタールしか残っていないという。■淡水引き入れアシ再生 アシはある程度の塩分に耐える性質がある。だが、ラグーン内部の水は塩分尺度で0~15の範囲内のはずが現在は30で、海水に近い値となっている。「ライフ・ラグーン・リフレッシュ」計画では、シーレ川 (Sile River) の淡水の流路を変えてラグーンに流入させている。5月から運用されているこの人工水路は、計画での必要性や潮の満ち引きに応じて水の流量を調節することができる。また、ココナツ繊維でできた生分解性の障壁が、対象エリア内に淡水を封じ込め、アシが生育する助けとなる。計画では全体で約20ヘクタールのアシの再生を目指す、スフリーソ氏は話した。■「命であり世界」 「ラグーンはわれわれの命であり、世界だ」と話すのは、アマチュアの漁師と猟師で構成される環境保護団体の代表を務めるマッシモ・パラビッチーニ (Massimo Parravicini) 氏 (58) だ。「ラグーンを保護すれば、その恩恵を最大限享受でき、子孫に伝えることができる」と語るパラビッチーニさんは、今回の計画で定期的にボラン

ティア活動を行っており、この計画のことを「生態系にとって不可欠」と表現している。 計画の成果は、フランスのイエール (Hyeres) 、スペインのアルブフェーラ (Albufera) 、ギリシャのネストス・デルタ (Nestos Delta) とポルト・ラゴス (Porto Lagos) など、同様の問題を抱える地域で共有される。 映像は7月に取材したもの。(c)AFPBB News

### 【関連記事】

- [ベネチアで伝統のレガッタ コロナ禍も開催](#)
- [伝統の「ムラーノガラス」 大運河のボートで職人技披露 ベネチア](#)
- [「緑のスラム街」 持続可能な生活目指す町づくりに住民奮闘 ブラジル](#)
- [世界の湿地、森林の3倍の速さで消滅 ラムサール条約初の報告](#)
- [【動画】いつもより大胆なカピバラの群れ、人けのなくなった潟湖 アルゼンチン](#)